

洋桜図案改正茶 1 銭

川原 啓一郎

この洋桜図案改正切手は手彫切手の最終シリーズで明治8年6月に1銭と2銭が、同9年3月に5銭が発行された。1銭と2銭は結び目がリボン結びになったことから、房(リボン)1銭、房2銭とも呼ばれている。

カバーは播磨の鶴(いかるが)から摂津・大阪宛に、明治9年5月25日に差し立てられたもので、当時の料金は市内宛1銭、市外宛2銭であったので、房1銭が2枚貼付されている。抹消はKG型、着印は便号の入ったKB1型が使用されている。

鶴と言えば奈良法隆寺のある斑鳩(いかるが)を思い起こすが、この地は戦国時代まで法隆寺の荘園(鶴荘)があったところで、現在は太子町になっている。

なお「いかるが」とは、平成切手の1994年シリーズ額面140円の図案となっているイカルを指している。



(宛名面)

